

平成30年7月18日

平成30年度 学校関係者評価報告書

学校法人大原学園
大原外語観光&ブライダルビューティー専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人大原学園大原外語観光&ブライダルビューティー専門学校、学校関係者評価委員会は、平成30年度自己点検・評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施し、以下のとおり報告致します。

1. 実施日

平成30年7月18日

2. 学校関係者評価委員

江口 美貴 氏 (株式会社 ヴルーメン 取締役会長)
信下 かね子 氏 (株式会社 メルシー 専務取締役)
中林 サチ 氏 (株式会社 キュアネ 代表取締役)
佐古 道治 氏 (株式会社 JTB西日本 神戸支店 副支店長)
水谷 雅彦 氏 (東武トップツアーズ株式会社 関西支社 大阪法人事業部 第2営業部 部長)
鈴木 洋二 氏 (株式会社 TEI グループ長)

(事務局)

田中 克実 (大原学園大原外語観光&ブライダルビューティー専門学校 校長)
藤川 宏明 (大原学園大原外語観光&ブライダルビューティー専門学校
外語・IT・スポーツ・医療教務部部長)
山本 省二 (大原学園 関西圏就職本部)
藤井 智香 (大原学園大原外語観光&ブライダルビューティー専門学校
ブライダルビューティー課 課長)
梶原 賢二 (大原学園大原外語観光&ブライダルビューティー専門学校
外語観光課 課長代理)

自己点検・評価の概要

大原外語観光&ブライダルビューティー専門学校の平成 29 年度における自己点検・評価については、全般的に良好な結果であった。

学校運営は、意思決定システムが確立されており、円滑な運営が行われている。また、教育理念に基づいた運営方針が明確に定められており、教育理念を達成するための事業計画の策定、各種研修制度の確立を通じて有為な人材育成が行えている。

昨年度は重点課題を「実学教育と人格育成教育をテーマとした就職教育の充実」「資格取得率の向上と実践的な知識習得」「学生の地域活動を通じた社会性の向上」の 3 点を中心に改善を図っている。

就職実績は、全国就職率 99.2%と継続して高い内定率を達成することが出来ている。昨年度、教育課程編成委員からの提言により、実学教育と人格育成教育を盛り込んだ教育ストーリーのブラッシュアップを実施した。多くの学生が就職先の特性に合った技能を身に付けることが出来ている。

資格取得においては、本校では高い合格率を維持することができている。かつ学科によってはインターンシップの導入など改訂も加えられており、教育効果が高まっている。なお、学校運営として、予算計画・執行は規定に従って適切に行なわれており、財務状況も安定している。

重点目標 1

実学教育と人格の陶冶をテーマとした就職教育の充実

<現状・達成指標>

今年度も継続して内定率は十分な成果を上げることが出来ている。

学生個人の資質、適性、能力、属性を十分に考慮し、個人別に適した就職指導を実施すること、内定後の実態調査を行い、調査結果を精査の上、更なる満足度向上を図る。

<具体的方策>

社会常識・適性能力が低下傾向にあることから、入学直後から就職教育を実施している。社会常識を常に意識させ、学生から社会人へ早期の段階で成長させることで高い内定率を今後も維持する。また、インターンシップや、PCP 教育・実践的授業を通じて実学を学び、入社から 2～3 年後を想定した社会性を身に付け、即戦力となる人材を育成に取り組む。

<学校関係者の評価・提言>

- ①毎年、多くの大原卒業生が社会で活躍している。今後も社会に巣立つ大原生に期待している。
- ②実学教育と人格育成教育を、入学直後の段階から教育プログラムに組み込み教育を行うことによって、学生の社会常識・適性能力の低下に対応している点は評価できる。学生から社会人へ自立出来るよう教育内容を更に充実させ、社会貢献を果たせる人材育成教育を行って欲しい。
- ③本人の長所、特性を理解させ、それを振り返る機会を提供した上で、資格取得や進路を選択することで、即戦力として活躍できる人材を輩出して欲しい。
- ④実学教育について、改めて、教育ストーリーを点検し、ブラッシュアップして欲しい。

重点目標 2

資格取得率の向上と実践的な知識習得

<現状・達成指標>

資格取得実績は安定的に維持できている。一方で、検定試験の難易度上昇など、受験対策の環境が変化している資格が増加傾向にある。

教員は、常に最新の知識、実務の情報とあわせて、高い指導力、講義力を身に付け、合格実績の更なる向上を図る。

<具体的方策>

企業等と連携し組織的に教員研修を実施したり学内でも勉強会を継続実施することで、教員のスキルを向上させる。

また業界団体の会議等にも積極的に参加し、最新の検定に関する情報を獲得する。

検定試験の難度上昇に対しては、各種検定試験の情報収集、教材およびカリキュラムの改定を行い、指導方法の研究を継続的に行い、受験環境の変化に即時対応出来るよう指導方法の研究を継続する。

<学校関係者の評価・提言>

①単なる資格取得のみならず、実務を意識した教育を合わせて行うことで、座学と実学の両方を修得し、社会で即戦力となる実力を身に付けて欲しい。

②資格取得のみならず、実践的な技能を身に付けることができる教育を継続実施して欲しい。

③社会環境は、めまぐるしく変化している。その変化に対応できるよう教員の指導力向上を更に進めて欲しい。

重点目標 3

学生の地域貢献を通じた社会性の向上

<現状・達成指標>

学校所在地自治体等、地域活動への参加により、近隣の方々に配慮した行動を身に付ける。また、ボランティア活動を推奨し、積極的に参加させる。

<具体的方策>

継続して近隣清掃を実施し、今後も、地域活動、ボランティア活動を通して学生の社会性の向上を図る。

<学校関係者の評価・提言>

①学校と関係する協会を通じた地域活動、ボランティア活動にも積極的に参加することで、社会常識を身に付ける場として有効利用して欲しい。

②近隣住民に配慮した行動、地域美化を意識した行動ができるよう引き続き、指導を継続して欲しい。

重点目標 4

留学生に対する指導体制の整備

<現状・達成指標>

資格取得のみならず、日本語補講や専門課程と同レベルでの個別相談を実施している。希望者に対しては、就職斡旋も行っており、内定率も一定の成果を上げている。

<具体的方策>

留学生のニーズに合わせて複数のコースで受け入れを行っている。日本語能力に合わせて、希望コースの履修を行っている。

また、日本語学院とも連携を図り、必要に応じて母国語で対応できる環境を整えている。

＜学校関係者の評価・提言＞

①近年、留学生の増加に伴い、国際交流の点からも積極的に留学生の受け入れを行っていることは評価できる。

②今後、日本の労働人口は減少に歯止めが掛からないことから、優秀な留学生を社会に輩出することは、日本経済を支える意味でも重要になると思われる。教育ストーリーを更に充実させ、多くの留学生を社会に輩出して欲しい。

学校評価全体に対する評価

自己評価結果については、適正であると評価できる。

大原外語観光&ブライダルビューティー専門学校の教育成果及び学生指導並びに学校運営の取組みについて、企業の視点から検証を行った。自己評価結果は妥当であると評価できる。現状として、学生、保護者はもちろんのこと、学生を採用する企業でも大原外語観光&ブライダルビューティー専門学校では、良い教育を提供できていると思われる。

社会の変化に対応した教育を提供すること、実学教育・人格育成教育を提供すること、専門性が高く社会で即戦力となる人材育成を担うことに変化はないが、現状に満足することなく、社会から専門学校に求められる知識・技能教育について、常により良い教育が出来るよう常にブラッシュアップを図って欲しい。

今年度、重点課題の中で留学生に対する指導体制の整備など4点に絞り込んで改善活動に取り組んでいる点は良いと思うが、学校運営の事情から現時点で取組みが行なわれていない項目がある。これらについて、将来的に取り組みを検討して欲しい。

学校関係者委員会総括

学生の「実学教育と人格育成教育をテーマとした就職教育の充実」を教育テーマに掲げて、教職員全員が一丸となって学校運営・教育活動に取り組んでいる。多くの大原卒業生が実社会で活躍していることは、社会的貢献の意味で非常に大きな役割を果たしている。

各学科の修業年限の中で、社会で即戦力となる知識技能や社会性を向上させる教育を提供していると思われる。また、学生生活においては、様々な場面で学生とコミュニケーションを図り、学生の長所や特性を踏まえた上での指導が、素晴らしい教育成果を上げている原点であろうと推察される。学習相談のみならず、日々の生活における悩みなども教員・保護者と共有解決しながら、学生が成長していく姿が想像できる。

今後も学生の更なる社会性の低下が予想されるが、「実学教育と人格育成教育をテーマとした就職教育の充実」を永続的に実現するには、社会の変化に対応した教育プログラムの開発・改訂・提供を常に行うことが重要と考えられるため、重点課題の改善に向けた取り組みの中で反映させて欲しい。今後も学校関係者一同、客観的な視点から様々な提言を投げかけることにより、大原外語観光&ブライダルビューティー専門学校が社会の信頼を益々得られるようにサポートしていきたいと思う。